



日差しの照りつける夏休みシーズンです。きっと楽しい計画が沢山あることでしょう。でも長期のお休みのない方や暑さにくたびれた日には、本を開いて、おもいきり遠くへ行きませんか？今回は星の数ほどある名作ファンタジーの中から、ほんの一部を紹介します。飛行機に乗ってもたどりつけない、冒険旅行に旅立ちましょう。

『夜の写本師』

乾石智子/F 仮

右手に月石、左手に黒曜石、口の中に真珠をもって生れでてきたカリュドウ。その意味を知らされないまま育ての親を殺され、大魔術師アンジストを滅ぼす手立てを探り始めます。それは 1000 年前の惨劇に端を発した、因縁との決着をも意味していました。丹念に物語を織りあげる、注目の作家！

『図書館の魔女』上・下

高田大介/F 効

世界中から集まる、膨大な本をおさめる高い塔。そこでキリヒトが通訳として出会ったのは、口のきけない少女マツリカ。彼女は図書館司書の長として、集められた本の知識を自在に利用し、言葉を操り、周辺の強国との緊張関係が高まるなかでも強い発言力で調停役を務める図書館の魔女でした。

精華町立図書館の魔女たち(=司書)
もぜひご活用ください

『仮面の街』

ウィリアム・アヴ・ザ・ンター/N アル

美しく整然とした街と、塵にまみれた街からなる、芝居の禁じられたゾンベイ市。ロウニーは機械仕掛けの足を持つ魔女グラバの元で、他の孤児たちと一緒に暮らしていました。ある日、違法と知りつつ見に行った仮面劇の一座のゴブリンから、行方知れずの兄ロウワンの話を耳にします。そしてグラバが孤児たちを魔法に利用しているのに気づき逃げ出すのですが…。

作りこまれた世界観が魅力的な、全米図書館賞受賞作！夏に姉妹編が出版予定です

『氷と炎の歌』シリーズ

ジョージ・R・R・マーティン/N マテ

大陸の覇権をめぐる有力者達の争いとそれに翻弄される無辜の民、北からの異形の侵略、有するドラゴンを利用して滅亡した王家の再興をもくろむその末裔、と策謀渦巻く大長編です。中世ヨーロッパを思わせる異世界での群雄割拠の争いを、膨大な登場人物それぞれの視点から描いた、まだまだ続刊中の重厚な群像劇です。

ローカス賞受賞作！

『<骨牌使い>の鏡』上・下 五代ゆう/F ゴダ

世界の理となる<詞>を操る、<骨牌使い>の少女アトリ。占いで凶札をひいた青年ロナーとの出会いをきっかけに、異形の者の襲撃、自身の出生にまつわる予期しない力の発現と、市井の占い師だったはずの彼女の運命が回り始めます。やがてそれは国の存亡や、<詞>や<骨牌>の隠された真実へとつながっていきます。

著者は故・栗本薫の未完の大作

『グインサーガ』も書き継いでいます

『山人奇談録』 六条仁真/F 叻(児)

山人の“じいちゃん”にみちびかれて“あたし”が遭遇する、山で息づく人ならぬ者たち。人を惑わせ呼び寄せる、竹の下に眠る姫。祭りの雨を降らせる龍神。山の怪しい者たちが集まる闇市…。四季の彩りと共に語られる、人里離れた山奥の奇談録です。

児童書だけど大人にも楽しんでほしい、日本の物語

★モチーフのある物語★

『エアナンの魔女』『サブリエル』『ライラエル』『アプホーセン』『ミミズク』

『ドット』『黄金の羅針盤』『光草よまわれ』『五龍世界』『魔法の声』『グリム姉妹の事件簿』

『囚われの王女と魔術師の娘』 マーセデス・ラッキー/YA Nラッ

魔術師の手にかかり、昼は白鳥、夜は人にもどる魔法をかけられた少女たち。それを見張るのは魔術師の娘オディール。囚われているのは犯した罪に対する当然の報いと信じていたけれど…。同作者の、とある異世界のヴァルデマール国を中心に、年代記のように各時代を描いた『ヴァルデマール年代記』のシリーズもあわせてどうぞ。どこから読み始めても大丈夫です！

黒鳥が主人公の『白鳥の湖』

『血のごとく赤く』 タニス・リー/Nリ

『眠り姫』『ラプンツェル』『シンデレラ』『ハーメルンの笛吹き男』などなど。ご存じの昔話がダークファンタジーの名手によって退廃と甘美に彩られ、幻想的にたち現れます。

耽美な『昔話』

『冬の薔薇』 パトリシア・A・マキップ/Nマキ

森に魅入られ、人とは違うものを見る目を持つ風変わりな少女ロイズは、光の中から若者が歩み出るのにでくわします。代々呪われていると噂される彼と、その呪いにひきつけられ、現実とは違った場所へと次第に踏み込んでいくこととなります。妖精に連れ去られた騎士をとりもどすバラッド『タム・リン』を元にした物語です。

『タム・リン』 繊細…!

『トニーノの歌う魔法』

ダ イナ・ウイン・ジョーンズ/YA Nジヨ

歌う魔法の呪文作りの名家、モンターナ家とペトロッキ家が反目しあうイタリアの小国カプローナ。突然魔力が弱まり、国に危険が迫っていても両家は相手が原因だと信じて疑いません。そんな混乱の中、モンターナ家のトニーノとペトロッキ家のアンジェリカが魔法で誘い出されて行方不明に。犯人はお互いの家だと決めつけた大人たちは性懲りもなく一族総出の魔法合戦を始め、トニーノの兄パオロとアンジェリカの姉レナータはこっそり手を組んで兄弟を探し始めます。一方、目を覚ましたトニーノたちは…?

悲劇『ロミオとジュリエット』が下敷きのドタバタファンタジー

★ファンタジー界の大御所たち★

『エアナンの魔女』『ライラエル』

『五龍世界』『サークル・オブ・マジック』『オズの魔法使い』『鳥に巣は似合わない』『魔法の声』『うしろの正面』

『三人寄れば、物語のことを』

上橋菜穂子・荻原規子・佐藤多佳子/E 虹

『守り人』、『RDG』、『シロガラス』…と、各人気シリーズの作家が集まってお互いの物語や読書体験、そして創作について語り合います。公私共に仲良しという三人がどんな話を繰り広げるのか、ファンの方は必見、そうでない方も新たな読書のきっかけに、三人と一緒に楽しんでください。上橋さん祝・国際アンデルセン賞!

『ファーザー・クリスマス』

J・R・R トールキン/Nトル

“中つ国”を舞台にした『ホビットの冒険』『指輪物語』など壮大な物語で有名なトールキンですが、作家であり大学の教授であると同時に、4人の子もたちの父親でもありました。この本は父トールキンが子どもたちに二十数年間贈り続けた、サンタクロースからの手紙を収めています。寒さでふるえる筆跡でつづられた、ユーモラスな出来事や愛情あふれる絵がカラーで楽しめます。

北極グマからも手紙が!

『はてしない物語』 ミヤエル・エンデ/Nエン(児)

太っちょのいじめられっこのバスチアンは、ひょんなことから出会った一冊の本に心を奪われ、盗んでしまいます。その本の題名は「はてしない物語」。隠れて読み始めたその物語の中では、世界が滅亡の危機に瀕し、少年アトレユが探索の旅にでていました。そしてその旅は、いつしかバスチアン自身を物語の中へといざない始めます。ちなみにエンデはこの本を翻訳した佐藤真理子さんと結婚されたそうです!

読むときはぜひハードカバーで! 作中とのリンクに嬉しくなるはずです